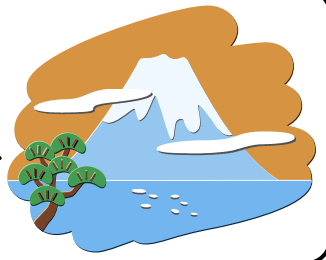




心も体も元気な岡村っ子

おもいやりをもち、
かがやく自分を求めて、
むちゅうになって共に学び
みらいを創っていく子

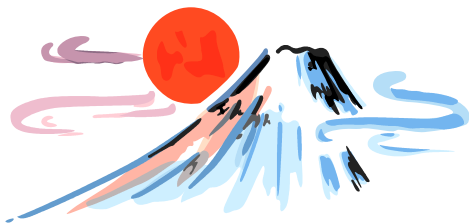


横浜市立岡村小学校・学校だより R4.1.7 <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/okamura/> 岡村小学校で検索

一富士

校長 川村 真弘

令和4年新春。『初春の令月にして、気淑く風和ぐ。梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫す。』と万葉集が謡う景色に令和4年の新春を重ね、改めて「令和」の起源を詠む。正月の華やぎも本校屋上や三殿台遺跡考古館から望む富士山も初春を祝うようで晴れやかだ。



先般クラブ活動ボランティアとして来校された三澤繁次前岡村地区連合町内会会長様から、「岡村公園から見える富士山が誠にきれい」という示唆に早速見に行くと、圧巻の富士山はまさに一興。正月初夢にちなめば「一富士二鷹三茄子」を思い起こして納得だ。このベスト3の生い立ちには諸説あるようだが、誰にもそれぞれに富士山には思い出があるだろうから、富士山が一番だというのは気持ちが良い。(岡村公園は磯子区地域福祉保健計画に都会空間の中の憩いの場と紹介されています。)

私は富士山を見ると祖母と母を思い出す。私事誠に恐縮だが、35年ほど前に私は嫁の出身地、静岡で結婚式を挙げたので、北海道函館市に住む私の祖母と母は、遠路を青函連絡船と寝台列車、新幹線を乗り継いだ。余りの遠さに申し訳ない気持ちもあったのだが、祖母と母が「おかげで初めて、本物の富士山を見ることができたよ」と心境察して、言葉に紡いでくれたことを思い出す。この日、晴れていて良かったと心底思った。以来、私にとっての富士山も一富士だ。

新春未だに富士も鷹も茄子も夢に出てこないが、圧巻の富士山なら岡村の町から本物が見える。今年も岡村の皆様の良いことがたくさんありますように。

本日7日「学校の誕生を祝う会」で59歳誕生記念を子どもたちとお祝いしました。校長室に掲げられている「開校宣言」には昭和38年1月10日、当地域の発展に即応し、磯子区岡村町687番地に横浜市立岡村小学校を開校すると記されています。令和4年、本校は60歳の還暦を迎えます。地域の皆様に支えられ、歴史を重ね、伝統を築いて参りました。今後とも地域に威風堂々、凜と建てる学校であるよう精進して参ります。

横浜市立岡村小学校教職員一同